

“繋がっていくから、分断していく”

本の紹介コーナー

著者の永井氏はソマリアなどの紛争地で、テロリストや投降兵らの脱過激化といった平和活動を行なっている。そのような紛争地にかぎらず、社会のなかで、どうしても他者から共感されない存在がある。

若い女性よりも中年男性は共感されにくい。美しいものよりも醜いものは共感されにくい。被害者よりも加害者は共感されにくい。味方よりも敵は共感されにくい。“共感されない人に対して、共感だけに頼ってはいは、誰の善意もその人にたどり着くことはできない。”

繋がりや共感の輪があれば同時に、そのなかにいない人、いられない人、本当はいたくない人もたくさん存在することになる。共生社会とはひとつの色でもなければ、ひとつのかたちでもなく、ときには「取り残される」自由さえも担保されていなければならない。少なくとも、そういう混沌から始まらなければならない。

これはまた別の本の話だが、ボーア戦争で初めて有刺鉄線が軍事利用されたとき、リヴィエル・ネッツという人がそれについて所感を書いている(らしい)。「接続は、それと直交する方向に切断を生む」。『共感という病』を読みながら、この言葉をたびたび思い出した。(増山)



『共感という病』
永井陽右著 (かんき出版)



◎編集後記◎

今年はオープンで蒸し焼きにされるような灼熱の暑さですね。

台風が来そうな気配もなく、猫のいる我が家は24時間365日? エアコンフル稼働(泣) 世界陸上の有名パーソナリティーが『地球に生まれてよかったあ〜!!』の名言で最終出演を締めくくっていましたが、いつまでもそう思える地球上の乗組員でありたいです。 宮古/Y・O

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX 098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0044

福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル3F

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)